

新古今増抄

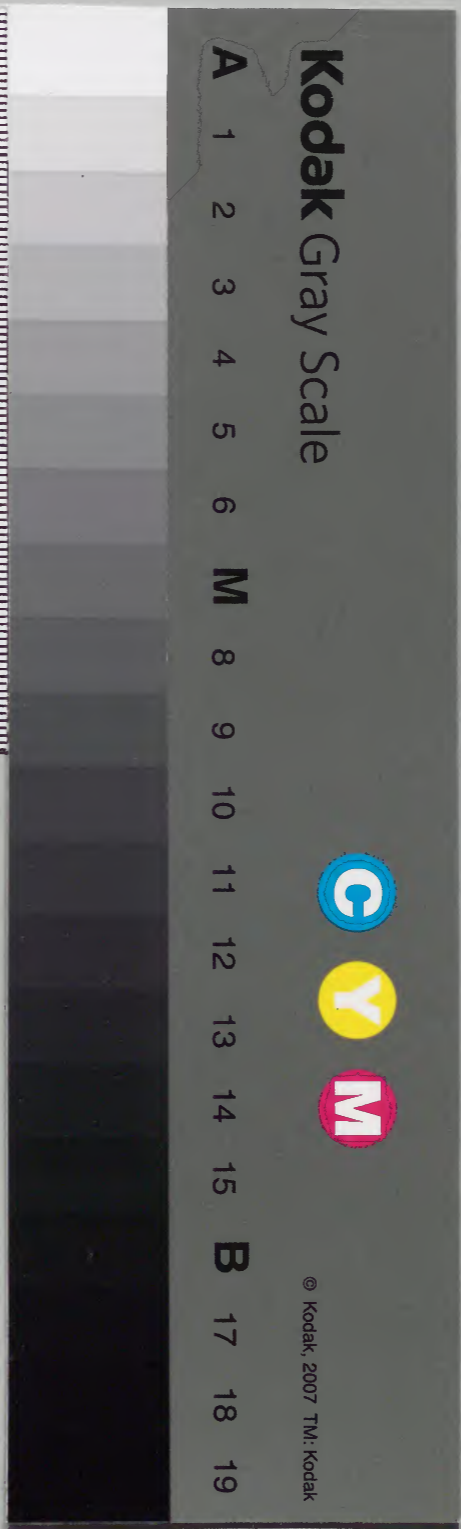
旅

共七冊

和書門			
二五三三	六八	二	類
號	函	冊	

內閣文庫			
二五三三	二	八	和書
號	冊	架	類

內閣文庫		
番號	和	25353
冊數	21	(12)
函號	200	116





書籍  
館印

和銅三年三月

拾芥云又明天智  
第四女阿閉  
和銅女帝人皇  
四三代也

淺草文庫

和學講談所

新古今和歌集卷第十

一 羈旅哥

坊抄云羈といは所子心統とあり記

とありと九條東之院所乃久後等

とそ

一 和銅三年三月若菜乃宮下り了れ

とやいふうりり終るのりこと

一 元明天皇御哥

諱日本根子天津御代豊國成姫小名

阿閉皇女

一 古抄云和銅三年三月若菜の宮下り了

古抄云和銅三年三月若菜の宮下り了



万葉六卷 一巻  
 和銅三年庚戌春  
 二月從藤原宮  
 遷于寧樂宮  
 時御輿傍長  
 屋原迦望三  
 御作歌  
 一書云大上天皇  
 御制  
 飛鳥明日香能里  
 年置兩伴奈波  
 君之當者不所  
 見香御良武  
 一云君之當者  
 不見而香毛  
 安良年

乃宮の移り行れけり何と云ふあり  
 文武天皇十一年藤原宮遷す  
 元明天皇同十一年即位改元  
 和銅同二年奈波の文造同三年  
 宮系より遷す也  
 といふ事いふ人の梅河也  
 の里とある事これし  
 や。云々あり文武天皇の傳の  
 やの陵の西輿と云ふ事  
 抄に云ふ事行れ何と云ふ事  
 清和也。云々あり  
 坊抄云々あり

万葉六卷

天平十二年

庚辰

冬十月依太宰  
 女戴原朝臣廣  
 嗣謀及放軍幸  
 于伊勢國之時河  
 口行宮内舍人伴

あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。あはれし。  
 天平十二年十月伊勢國よみ  
 人皇四十五代聖武天皇諱天  
 開豊樓彦文武帝皇子女曰藤原  
 人  
 古抄天平十二年伊勢國よみ  
 けり時と云ふ事あり  
 系の伊勢也



宿弥家持作歌

一首

阿比野邊雨

廬而夜乃歷

者妹之千本師

飛念陽

天皇御製歌

一首

妹尔意吾乃松

原見渡者齋于

乃渴尔多頭鳴

磯

右曾今案吾松原

在三重郡相云

何口行宮去遠矣

若疑御在朝明

行宮之時所

製歌作者誤

之流

おのゝとくおのゝとくおのゝとくおのゝとく

浮よそをりあつらふらむけは風来やそ

妹もえとや乃由まのるるかま

坊抄云いしよらんとおのゝとく

有りてこれらふらむまあつらふらむ

やんゆしかり。或は後よりしよら

けしきとみそやそや

そらこしあつらふらむ

山上悦言

いそとそや見のそとそとの源松まら

坊抄云いそとそや見のそとそとの源松まら

そらこしあつらふらむ

長路中略也  
没あり

そとのそとそは国なり。そとのそと

かふそらりしそらり

いそとそや

あまそらりあつらふらむ

増お云あつらふらむ

いそとそや

いそとそや

わららりあつらふらむ

宿抄云いそとそや

古抄云。そらりあつらふらむ

いそとそや















はるるいそめよかりしふ家やーさるハ

のりりあやしんとのそりー

伊勢よりくはり  
二女流遊子女王

ふとねねつるやまをちあつやとよき樹

古物もやとよむとねねちもよとり

うたよきうねんね人とうみゆい

まよきりあしーありいそとつじの

本あよとり

坊抄けあやあ角の角まねとる

乃人のありやーやとよまよい

いやの人もあしーあつあつあ

うのいそとよとよとよとよとよ

抄  
あつあつあ  
あつあつあ  
あつあつあ

いたーちとらよとよとよとよとよとよ  
ねとよのちとらよとよとよとよとよ  
うけとよのちとらよとよとよとよとよ  
よとよとよとよとよとよとよとよとよ  
ひとよとよとよとよとよとよとよとよ

一題きよとよ 景系補照  
従三位文時男

またとよとよとよとよとよとよとよとよ

坊抄とよとよとよとよとよとよとよとよ

かろとよとよとよとよとよとよとよとよ

ねとよとよとよとよとよとよとよとよ

一とよとよとよとよ

とよとよとよとよとよとよとよとよ

抄  
あつあつあ  
あつあつあ  
あつあつあ



















若あ所うくこの山重は新あ院ねとあり  
増物と云ふ家うむむらうのいんを  
く介しじよしやいんをうらうの感  
情ありてし

一 ぬのそ侍ひのふとねくね。神  
あまのそ侍ひのふとねくね。神  
あまのそ侍ひのふとねくね。神  
あまのそ侍ひのふとねくね。神

一 赤原 忠の 大和守を原特用女

一 実平兼國女 十一人入 此考知れ

一 ありあのいひもむしわさりきりりあけら  
つあふふあのもけり人あつ時くたのまこ

とくいと成どくしてとり。ちりしむとた  
のりあふ。くもあつてむらうらししと  
たり

一 海川院百首うよ。権中納と國信  
山らうらうらうらうらあつあつあつ  
増物院いづく起てゆくものうらうら  
山らのあまゆりもさうらげゆらあ  
うのきとあまよわさくや

一 大納と師頼

一 若花院のいんさうの月とあつあつ  
増物月とくさうさう。あつあつあつ  
たうらうらあつあつあつあつあつ

かきあつあつ  
行よゆいんなく  
あつあつあつ  
くつあつあつ  
又つあつあつ  
あつあつあつ  
あつあつあつ























是月とみて古く人し我とく神あり  
きんんとくちるよや下のふらちきりしよ  
うらも月とたれともあむ人ぞなれ  
やまんとしうらうのやなり

増抄よえんてやとハわきしんをほえし  
たぐきりつんうなれくらきりてとく  
ふく程よえなり

一 六十首よりとてまほりし  
一 九 陰 影 伝

○ 一 昭 文 西 三 山 井 等 著 三 山 井 等 著 三 山 井 等 著  
古抄うりねしやけきあうもれん  
白くこの一対月よまらりしんみく

あまの又あの一のうらちのうらちとらり  
越えしつよまよたれしとわわの中  
よやとりたれらふとくをり白やハ  
志山乃らわらふも乃なれハるよ  
久入し月よむらひさくお歎しの心  
まほりし

増抄云わけとみとつあそあらし  
くして山しうしとらるるきり  
あしよしとこのゆきとくあま  
なけきと月と程とをみゆや  
一 蘇 東 雅 記

○ 一 昭 文 西 三 山 井 等 著 三 山 井 等 著 三 山 井 等 著  
昭文の言はぬ氣うの肝



たうしつゝ  
配りよゆきま  
みよひよま  
あまのさつ  
くはてこま  
くよハ子  
つ

か  
山打もくれの種  
はく姉  
とわ  
境  
け  
や  
ま  
ゆ  
人  
う

一  
二

一  
二

増  
月  
は  
あ  
や  
も  
う  
あ  
月  
一  
猿

一  
二

一  
二



増訂二卷  
十一

橋政大政大臣

三と契て出而乳はも挽物と成る乃月  
 増抄云と云ふて月とみえたること  
 乃人の物りけしとありけしこと  
 おしやうしよあまねはと云わしと契  
 て出る事と云てある乃月と面乳は  
 らんものしと人のつらや出ん  
 とありこと月のことありけしなり  
 一旅乃と云しとてよと云けり  
 一前大信正と云ふ

○東海乃おとぬまはと云ふは山のよなる月け  
 吉抄云月はつづくもすむものなり

つらよと云くたけきあくと神乃後く  
 かわくある月されいこのあまこと  
 まうれと云る事及うくや那の山  
 ようら月とい或は月陰重山峯扇  
 喻と云とあははまなりハ那ハ西され  
 と云のことくあり

増抄云と云ふと下云なり或説はるや  
 くやと云うてあつらはるなり  
 律と云くまかたむむと云ふの山ま  
 うる月乳はるなりと云ふは  
 てみるやと云ふありと云ふなり  
 し経よと云ふと云ふなり



をるる所行り

一海濱重夜とくまのりしよき行

一越前

なるめきとてともの  
八程一より多なり  
目録一行未了なり  
しよあしんと思  
信義とてしよ  
てりあしんと  
ねとすしとま

下月とて多きとて流りおま伊との信義  
増抄云いくのたといすもてくぬれと夜  
乃ききなりあまなるなり重夜とて  
とあしり下白りた福とすなり  
ちりノ信とて海濱おまきなり  
やましんあしりた海濱とてしよきと  
半夕とてしよ

一白首あしりてしよし時

一宜秋門院丹後

馬きり小十郎の信とて流りおま伊との信義  
増抄云いくのたといすもてくぬれと夜  
乃ききなりあまなるなり重夜とて  
とあしり下白りた福とすなり  
ちりノ信とて海濱おまきなり  
やましんあしりた海濱とてしよきと  
半夕とてしよ

題云しよ 前中納言とて信義  
凡心しよの信義おまきなりおまきなり  
増抄云いくのたといすもてくぬれと夜  
乃ききなりあまなるなり重夜とて  
とあしり下白りた福とすなり  
ちりノ信とて海濱おまきなり  
やましんあしりた海濱とてしよきと  
半夕とてしよ



て文字よみなるを  
さうくしむれども  
人ハなにもし福の  
なれハさうくし

八雲山栞  
いくらののあり  
紀伊國 市との  
きりぬ

一権中納言定頼

磯洲しゆとけぬこ栞さくまひる水の行  
増抄さねふむねさねふれつそよ福洲  
てつとけぬ栞よあつくなまうけて  
若成さゆとまともりたてさうとけ  
て栞わねわなまともりこも栞と  
まもりゆりてすのさうやゆらぬ  
とけぬさうさうり

一武子内親王

一行来今くまのさ成景のちぬ栞し  
増抄つさしゆゆらぬまていさまゆ

小作名あまの  
さうしむれを  
たうゆらぬ

栞とつとけぬさのあまことばさ  
栞よつさきとてしかひくさのまもり  
るぬまきとくしとてひて栞人とや  
松栞の小作名栞乃さ栞いさなわねあまの  
増抄よま小作名栞のねさゆま  
さうこさうさうとくつとけぬらぬ  
みさしゆさうさうやこれの脚句  
乃栞とてまもりて中らぬあ  
のこまゆとてさうさう人いさ  
もさうとあつさうさうとあつ何と  
くはさうさうさうさう  
一子五百のあまの







あつしよふしつ日  
のくろしとくはら  
つしよふしつ日  
めつしよふしつ日  
山よりくろしつ  
れあつしよふしつ  
なり

一 白中城の孫ねむらぬよふきとあぢは頭なれ  
増おろくろしつとあつしよふしつ日と白中と  
いふまねと山とつとんこめやしら  
ハすりかろしつやなつしよふしつ日と  
まふねハくろしつとあつしよふしつ日と孫  
ハまのしつとあつしよふしつ日と  
一 三つらと行客とつとぬふしと  
一 大納とし綴信  
一 名さ此あきらるるの流合あだれつとぬふしと  
増抄夕日さすといやとしつとあつしよふしつ日と  
じよめたりやとあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
とゆくハつとぬふしとあつしよふしつ日と

あつしよふしつ日  
のくろしとくはら  
つしよふしつ日  
めつしよふしつ日  
山よりくろしつ  
れあつしよふしつ  
なり

一 攝政大臣たかあき合子巽中晩風  
こつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
一 漢くまの夜宿とつとぬふしとあつしよふしつ日と  
古抄此一と乃内は回るしつとあつしよふしつ日と  
かこしつとあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
てこしつとあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
ひとつとあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
こしつとあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
るしつとあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
知とあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
一 岩の石のなまあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と  
つとあつしよふしつ日とあつしよふしつ日と



川原乃若松乃毛いさしなわわれハ  
 井わが程のまのみにきりり  
 川さぬてしすしの名うしあし  
 ことしはるるをさののあし  
 増抄云上のよとひて下のよとある  
 てよといたよりあましとらわれきね  
 所なれハあちりのくまらそそやと  
 といつわんととあしりてそや日と  
 くらよちわれハのくしとあらまら  
 あしとせむはあまのあし  
 かんとたりせんそなそそ風の  
 かくらぬよとんとたはら

かけくしのしとま  
 ちあふんをせ  
 ハゆくまのしとま  
 うせう神とせ  
 わのしとまとせ

かわれまり  
 一旅あをそよゆか  
 猿の神をそよゆか  
 右抄なりとよんそそなり又ゆの時分  
 猿ののよはたなりといふそそ  
 とせやのや材たとのあると  
 ことしのちんまよとよゆか  
 増抄云夕のけけとわら柳をり  
 のしんまよとよゆかのあゆ  
 言うことよりあそそそそそ  
 神そそ人のうそそそそそそ  
 一若京家隆の







芳原雅経

のりときまらするは  
訓してよきまらふ  
けらよきまらふのり  
けらよきまらふのり  
けらよきまらふのり  
けらよきまらふのり  
けらよきまらふのり

のへりりいよむ  
ひやあまみら  
ひやあまみら  
ひやあまみら  
ひやあまみら  
ひやあまみら  
ひやあまみら

自らのくろのまよと遊ねん河の流よ神とて  
増抄云白雲のかりてあるとねまら  
り遊ねんとたりとちりてはかたあ  
りよかりわらうとよまらる神とま  
らとてとやちりよりたのうまあらし  
とすうよとちりの元とてあらし  
よらうひまよとてあらしと  
一海かぬむ  
とらうとぬねまはさぬられの山月  
増抄云とまきのうのさしとを  
らうとくううまらとちりてはかたあ

八雲抄  
そのまら山城

うねきぬまらうとちりあのあるあそゆ  
きはうておまら移るうや方角と  
とらうぬはらうのまら月はうら  
ちるうとねや月まらとちりまら  
はとや月と人とのまらやみらのはま  
くわてこのまらハゆらわらうのま  
うねとらうとちりやうのあまらハ方角  
とらうとまら  
和原の所を合の器中り方とまら  
皇太子所を合の器中り方とまら  
増抄云と形をて凡のまらとちり  
古抄云と形をて凡のまらとちり



























とゆく此をいけちのまゝにわかれてゆき  
まりゆりのたねとゆれりは二つは  
いやとまゝのそとにさしとかり

一千五百番より合よ

○故よはのり人し事の松より人神ははやとん  
古抄云木の松中の松葉の松とて之を  
わくしとかりうれしとむとひよ葉の松と  
云やされハ葉の松といふて松とをり  
しとかりとや

松抄云わづよまゝのそとハあつりの  
とかりとやハあつりとよまゝととの  
とてあつりよんてあつりあつりんとや

あのおら  
みらめや

神よまゝのそと  
やまゝとてまゝと  
いふてまゝとて  
あつりいふとわ  
れよハまゝと  
まゝとかり

よまゝとてまゝと  
のうとてあつて  
たつとてまゝと  
し

むらよれれ  
まゝとまゝとや  
まゝとまゝとや  
まゝとまゝとや

一今会し作けり時松の心とよん

一入道前開自太政大臣

一後任は松葉の葉といふ松がハ松葉にかし

一松抄云日ゆ人はハあつりとなり一松二

一松とあつり日とつととなり一葉と

一とハあつりまゝとかりたる仰や

一堀河院御時百首よりとてまゝり

一松とハ松葉の葉といふ松がハ松葉にかし

一松抄云日ゆ人はハあつりとなり一松二

一松とあつり日とつととなり一葉と

一とハあつりまゝとかりたる仰や

一堀河院御時百首よりとてまゝり



かゝの御めい  
つきいんれいさき  
又神ゆゑの  
あされし後  
みゆりしれ  
ていりり

より知るし所をさるる方なれどもこの  
海を乃面白おもしろいれどもすれは流  
浪と羸得と思ふやうなるなりあり  
さなるなりあり家出羽國や  
坊抄とさるるなりあり流罪あり  
たうたれありと神やけいとの  
なくしれありとゆふともあやし  
たしむねしりたるなりあり  
入る前て自せり百首なりは心の心  
一向を信ふさま後成  
難は余の世をさるるなりあり神の  
増抄とやとのありしれよりなり神ののり

かゝの御めい  
つきいんれいさき  
又神ゆゑの  
あされし後  
みゆりしれ  
ていりり

かゝの御めい  
つきいんれいさき  
又神ゆゑの  
あされし後  
みゆりしれ  
ていりり

さるるなりありとさるるなりあり  
かゝの御めい  
あされし後  
みゆりしれ  
ていりり  
わりの難はのさるるなりあり  
かゝの御めい  
あされし後  
みゆりしれ  
ていりり  
又難はのさるるなりあり  
坊抄とさるるなりあり  
さるるなりありとさるるなりあり  
かゝの御めい  
あされし後  
みゆりしれ  
ていりり  
一前右大物頼朝







のふとまのり  
やまのり  
まのり  
まのり

乃あひののやととわしじまきなり  
くし せむせむ  
吾神よふまけらるるをよむじまきなり  
皆お云やまけらるるをよむじまきなり  
わんまきけらるるをよむじまきなり  
とあひののやととわしじまきなり  
あしとまきけらるるをよむじまきなり

一和のりあひののやととわしじまきなり  
まうりしよまきけらるるをよむじまきなり

○神のりあひののやととわしじまきなり  
古抄云海舟物終に下れまきけらるるをよむじまきなり  
かくまきけらるるをよむじまきなり

のふとまのり  
やまのり  
まのり  
まのり

とまのりあひののやととわしじまきなり  
とまのりあひののやととわしじまきなり  
わんまきけらるるをよむじまきなり  
とあひののやととわしじまきなり  
あしとまきけらるるをよむじまきなり

○

神のりあひののやととわしじまきなり











あまのついでに  
くさのついでに  
りよのついでに  
即ちたうと  
あまのついでに  
のついでに

一 ちかづきしつらふとてしあつた  
しあつたしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた

一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた

ついでに  
あまのついでに  
くさのついでに  
りよのついでに  
即ちたうと  
あまのついでに  
のついでに

一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた

あまのついでに  
くさのついでに  
りよのついでに  
即ちたうと  
あまのついでに  
のついでに

一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた  
一 ちかづきしつらふとてしあつた  
たれいあつたしつらふとてしあつた











